【テーマ1：「教員の学びの見える化」AI 分析システム及び教員の多様な学びに対応した資質・能力のデジタル認証システムのモデル開発】

【国立大学法人 東京学芸大学 】
先端教育人材育成推進機構
教育者研修プラットフォーム開発ユニット

【協力団体】

- アル一株式会社
- 株式会社カナメプロジェクト
- 株式会社ネットラーニング
- 岡山県津山市教育委員会
- 東京都八王子市教育委員会

背景

「新たな教師の学びの姿の実現」「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」の実現するために下記の3つの仕組みの構築が必要

①教員が個別最適化した主体的な学びをできる仕組みづくり

②教員の個別最適化した主体的な学びが学ぶだけでなく評価される仕組みづくり

③教員の個別最適化した主体的な学びが記録され、見える化される仕組みづくり

モデル開発概要/実施事項

2つの教育委員会の教員を対象に、既存のLMSを活用して下記を提供し、教員の学びにとっての価値を実践検証した。

①既存、新規の多様な講座

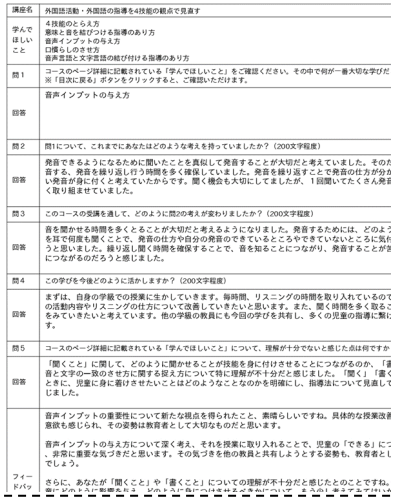
②新規で開発した教員自身が自らの学びを振り返る仕組み

③教員の学びを教員に必要とされる資質・能力と紐づけて記録していく仕組み

④教員の学びを教員に必要とされる資質・能力と紐づけて認証していく仕組み

成果物/高度化に資する取組

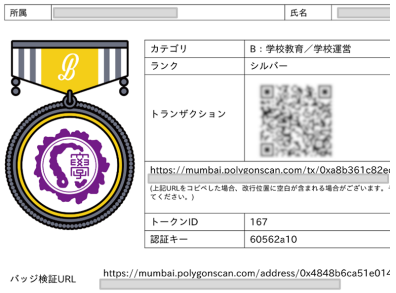
①生成AIを活用した教員のリフレクションシステム



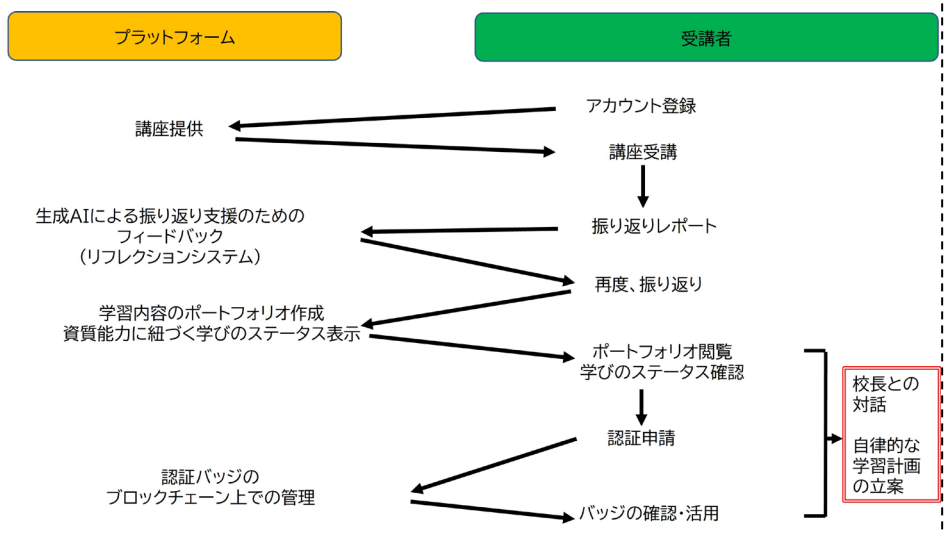
②学習内容・振り返りレポート・AIからのコメントが記録され、資質・能力に紐づいた学習量のステータスが表示された学びのポートフォリオの作成・管理システム

③デジタルバッジによる資質・能力に紐づいた学びの認証と管理のシステム

教育者のための学びのプラットフォーム
学びのバッジ証明書



講座受講の流れ



創出された価値・今後の展開

① 開発・検証された仕組みを組み込んだ東京学芸大学が運営する「教育者の主体的な学びのためのプラットフォーム　I Dig Edu」実装

② オープンバッジを活用した教員の学びの国際標準のデジタル認証実装

③「用意された研修を受講する」ことから「自身が見つけて来た学びたい研修を受講する」、「組織側が教員の学習履歴を所有、管理する」から「教員自身が自分の学習履歴を所有、管理し、組織側に開示、PRしていく」への研修観転換の促進。